

サポートセンターだより

中部北保護区保護司会 編集 企画調整保護司

一緒に考えてみよう！

新型コロナウイルス緊急事態の中、いかにみんなが心身ともに元気であるために、何をどうしなければならないのか、考えなければならない状況で特に私達保護司として悩むことが多いと思います。今回は8月6日に新任保護司研修会が開催され、先輩保護司としての座談会に使った資料を提供します。コロナ禍で時短の為まとめた資料です。(参考に)

新任保護司研修会

保護司

犯してしまった罪を少年院、刑務所などでつぐない社会の一員として立ち直ろうとすると、本人の信念だけでは出来ない。行政、地域社会の理解と協力が必要。更生しようとする本人を支えるのが更生保護ボランティア。

- ① 保護司 ②保護施設(身寄りのない人) ③更生保護女性会(おばさんだからできること) ④BBS会(まず行動、兄さん、姉さんたちと遊ぶ、学ぶ) ⑤協力雇用主(縁あって、出会った人、みんなファミリー)

更生保護は社会の中での立ち直りを導き、助け再犯や非行になるのを防止する役目。その活動には保護司や協力雇用主をはじめ、たくさんの人たちが関わっています。(就労支援)信じてくれる人がいること、必要とされる場所があること。少年なら家族がいる。成人なら働く場所があることが更生する大事なことです。更生保護は社会に暮らす人たちが関わることで成り立つもの。そのために、毎年7月は強調月間として「社会を明るくする運動」…犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラということで法務省が設定し全国的な運動となっている。今年のテーマは「#生きづらさを、生きていく」です。昨年からの新型コロナウイルスの蔓延防止の為社会への広報・啓発活動が滞っています。私達の日常生活にも影響し、当たり前だったことができず(人とのふれあい)社会的に孤独、孤立が叫ばれました。「生きづらさ」を誰もが感じているのではないのでしょうか。コロナ禍で立ち直ろうとしている人も、私達、誰もが生きづらさを感している。だからこそ人に頼り、支えてもらいながら「生きづらさを、生きていく」ことが重要ではないかなあ…今年のテーマ設定の理由が理解できた感じです。

サポートセンター(情報交換、交流の場、地域の相談窓口)10時~16時

- ①面接場所②保護司の処遇活動に関する相談③保護司同士の処遇協議、情報交換、企画運営④協力雇用主の確保⑤その他地域関係団体(更女会)との連携

地域に根ざした犯罪、非行防止活動、薬物乱用防止のセミナーの企画運営などの役割をしています。どうぞ、気楽にご利用ください。

(先輩保護司が思い思いに話すとコロナ禍で大変ですので、資料として利用したものです)



報告書は5日までに 提出しましょう。

コロナ緊急事態が
今月30日まで延長
され、保護司の活動
ももう少し、自粛で
すね。みんなで乗り
切りましょう。



サポートセンター開所から6年!!!

サポセンが開所してもうすぐ6年になります。年を重ねるごとに、多くの学びの場になりました。先輩保護司の来所、対象者の面接場所、お互いの情報交換の場所として利用されています。対象者の抱える問題点、地域環境の違い等からお互いに共有する中で学ぶことが多くあります。時には地域の方や生徒指導の先生方との情報交換の場にもなっています。サポセンに行けば「誰かがいる~聴いてくれる仲間がいる」自分の悩みなど再確認ができる等、多機能の場所として最適です。待っています。